

中国の石炭火力発電所リノベーション事業等に関する
華能集团公司との覚書締結について

当社は、本日(9月12日)、中国の発電会社である華能集团公司(本社:北京市、代表者:曹培玺[ツォー・ペーシ]総経理)との間で、中国における石炭火力発電所のリノベーション事業(効率性向上及び環境改善)等に関する覚書を締結しました。

この覚書に基づき、当社が長年培ってきた石炭火力発電技術を活用し、中国国内における石炭火力発電所の環境問題改善に貢献していきたいと考えています。

1.覚書締結に至る経緯

- 平成19年4月に東京で開催された「日中エネルギー協力セミナー」において、中国における石炭火力発電所のリノベーション事業での協力について、財団法人石炭エネルギーセンター(JCOAL)、中国の電力企業連合会(CEC:China Electricity Council)、国際協力銀行(JBIC)の3者で覚書が締結されました。この締結を踏まえ、平成19年9月に北京で開催された「第2回日中省エネ・環境総合フォーラム」において、経済産業省と中国の国家発展改革委員会の間で、中国における石炭火力発電所のリノベーション事業促進プロジェクトを支援することについての合意がなされました。
- この取り組みの一つとして、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が「中国における石炭火力発電所設備診断事業」の公募を行いました。当社は、この公募事業をJCOAL他と共同受託し、平成19年10月から平成20年3月に、華能集团公司が所有する上安発電所3号機(石炭火力、出力30万kW、河北省石家庄市)の効率改善提案および設備診断を実施しました。
- その後、当社の有する石炭火力技術を高く評価した華能集团公司から、当社とビジネスベースで継続的な技術交流を進めたいとの提案を受け、今回、その基本的な枠組みを定める覚書の締結に至りました。

2.覚書の概要

(1)技術協力の範囲

① 技術協力の実施

- ・当社が設備診断および効率改善提案を実施した上安発電所3号機に関するリノベーション計画に対する技術協力
- ・その他類似ユニットのリノベーション計画に対する技術協力

② 技術提案の実施

- ・環境関連設備の運用等に関する技術提案
- ・超超臨界圧石炭火力発電所の運用・保守等に関する技術提案

(2)期間

覚書調印後1年間

参考資料

 [華能集团公司の概要\[PDF:165KB\]](#)

華能集团公司の概要

華能集团公司は1988年に設立された国有の持株発電会社。2002年の電力体制改革に伴い国家電力会社の発電部門の一部が移管され、5大発電集団の中で最大の電源容量を保有している。

1. 会社概要

- (1) 発電設備 7,158万kW (2007年)
- (2) 発電電力量 3,270億kWh (2007年)

2. 発電設備

- : 火力発電所
- : 水力発電所
- ▲ : 風力発電所



出典：華能集团公司ホームページ